

食品・農業・教育の立場で食育を考える

門傳 英慈

1. 食育推進はオールジャパンで
2. 農村の変化と子供の食育
3. 安さと便利さの落とし穴
4. 食育は自給率向上の道具か

OK!



JA名

平成17年産「JAみやぎ米」の 栽培履歴記録簿

バーコード

伝ビツくん

安全で安心できる「JAみやぎ米」の信頼性確保のため正しく記入し、必ずJAへ提出してください、(ボールペンで強く記入してください)

生産者氏名	支店・営農センター名	住 所
印		

品 種 名	作付面積 (a)	種子・苗の使用状況				播 種	田 植	出穂期	収穫予定日	実収穫日
		購入種子(kg)	購入苗(箱数)	購入先(種子・苗)	自家種子(kg)					
ひとめぼれ						月 日 月 日	月 日 月 日	月 日 月 日	月 日 月 日	月 日 月 日

< 肥料・土壌改良資材・堆肥等の使用状況 >

使用目的	使用月日	肥 料 名	使用量	使用目的	使用月日	肥 料 名	使用量	
土づくり	月 日	土壌改良資材	kg/10a	培 土	/		kg/9a	
		堆 肥	kg/10a				kg/10a	
	育苗肥料	/	基 肥	kg/10a	追 肥	/		kg/10a
			g/箱	kg/11a				g/箱

< 農薬の使用状況 >

使用目的 対象病害	使用月日	農 薬 名	使用量(又は希 釈倍数)	使用目的 対象病害	使用月日	農 薬 名	使用量
種子消毒	月 日			紋枯れ病 (混合剤等含)	月 日		/10a
苗立枯病 (カビ・細菌等)			/箱	稲こうじ病 (混合剤等含)			/10a
				カメムシ類等 (混合剤等含)			/10a
				その他			/10a
				病害虫防除 (箱処理剤等)			g/箱
除 草 剤	初期剤		/10a	乾燥調製			1. コンバイン 2. バイnder
							出荷 (乾燥調製)
	初中期 一発剤・ 中期剤		/10a	記 帳 状 況 の 確 認 (J A 記 入 欄)			
	後期剤・ その他		/10a	確 認 月 日	確 認 者 氏 名	最 終 確 認 印 (生産工程管理責任者)	
	いもち病 (混合剤等含)			/10a	第1回	月 日	
第2回					月 日		
第3回					月 日		
第4回					月 日		

は平成16年版と記入項目が変更になった箇所です

平成17年用玄米栽培履歴記録簿（「JA米」情報開示用）記入上の注意について

OK!



JA名

平成17年産「JAみやぎ米」の栽培履歴記録簿

仮ビツくん

この栽培履歴記録簿様式は「JA米」の最終提出用および情報開示用です。他にJAからの生産基準別記帳様式・作業日誌等を配布されている場合はその様式に記録してください。この様式のバーコードナンバーは生産者ごとに1つしかありません（枝番号がありません）。

バーコード

したがって、同一品種で使用資材・栽培方法が異なるため複数圃場で作付けしている場合は、代表して作付面積が1番大きな圃場を選び、作業内容をこの様式に記帳して提出して下さい。他圃場はJA独自様式（または作業日誌等）に記入して、JAに内容の確認を受けてからJAに保管しておいてください。

安全で安心できる「JAみやぎ米」の信頼性確保のため正しく記入し、必ずJAへ提出してください。（ボールペンで強く記入してください）

生産者氏名		支店・営農センター名		住所						
(印)										
品種名	作付面積 (a)	種子・苗の使用状況				播種	田植	出穂期	収穫予定日	実収穫日
		購入種子 (kg)	購入苗 (箱数)	購入先 (種子・苗)	自家種子					
ひとめぼれ						月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
<p>生産基準内に複数種類の使用農薬が認められているため、使用農薬ごとに圃場が複数に分かれている場合は、最も面積の多い圃場を1つ選び記帳してください。その他圃場はJA独自生産基準別様式に記帳してJA担当者の確認を受けてください。また特別栽培玄米の場合は所定の様式に記入してください。</p>		<p>自家種子使用の場合、種子のDNA鑑定を行いつつ合格した種子のみ使用する場合は除いて、別様式に記入して下さい。使用量も必ず記帳して下さい。</p>		<p>種子・苗を購入した場合は、購入先（育苗センター等含む）の生産者氏名を記帳してください。さらにその生産者の購入証明書（JAの購入伝票等）の写しをもらい、コピーして1部はJAに提出して、1部は本人が保管してください。</p>		<p>異品種の混入を出穂期で判断するために必要です。JAが地区別主要品種別に出生期を示し、その範囲で生産者が圃場を確認して記入します。</p>		<p>最後に使用した農薬から収穫日までの間隔を計算するために必要です。農産物検査時に検査申込書に記入、CE等は搬入時に記入する等などの方法で、JA職員が転記します。</p>		
土づくり	肥料	使用目的		区画番号	肥料名	区画番号	使用量			
		区画番号	使用量							
土壌改良資材	堆肥	培土	kg/10a							
		基肥	kg/10a							
育苗肥料	追肥	追肥	g/箱							
		追肥	g/箱							
<p>基肥と土づくり資材が一体となった資材は（窒素入り）、土壌改良資材・基肥欄のどちらに記帳しても結構です。使用しても良いかどうか判らない土壌改良資材は、使用前にJA担当者に相談してください。</p>		<p>主要な材料別に牛糞肥・豚糞肥等と記入して下さい。使用月日は斜線にし記入不要とします。</p>		<p>使用月日は記入不要です（斜線を引いてください）。水田土を採取した、市販の山土を購入した、等を肥料名欄に記帳してください。市販商品の場合は、床土・覆土にかかわらず「商品名」を記帳してください。いずれも使用量は記入不要です（斜線部）。</p>		<p>できるだけ具体的な「商品名」を記帳してください。農業入り肥料の場合もそのまま商品名・使用量を記入してください。ペースト肥料に混入する農薬は、病害虫防除（箱処理剤）の欄に記帳してください。</p>				
<p>床土用に混ぜたり、育苗期間中に追肥として使用したものも含めて商品名を記入してください。箱当たり使用量は、計算上のおおよその値で結構です。追肥回数が多く記入欄が足りない場合は、欄を分割して追記してください。</p>		<p>追肥回数が多く記入欄が足りない場合は、欄を分割して追記してください。</p>		<p>防除をしなかった対象病害欄には「未使用」と記入して下さい。</p>						

< 農薬の使用状況 >

使用目的 対象病害	使用月日	農薬名	使用量 (又は希 釈倍数)	使用目的 対象病害	使用月日	農薬名	使用量
種子消毒		農薬名・使用量・使用方法はもれなく記帳すること（JA米必須記入事項）。「消毒済種子」配布の場合も、JAで使用農薬内容の資料を提供し、生産者が農薬名・使用量を記帳すること。	育苗センターから苗で購入した場合は、育苗センターで使用した資材を記入する。（JAで使用農薬内容の資料を提供し、生産者が商品名・使用量を記帳すること）	紋枯れ病 (混合剤等含)	月 日	共同防除（航空防除・ラジコンヘリ・その他地上防除）の場合は、生産者は農薬名欄の左端に「共」と、わかるように記入し、薬剤名はそれぞれの防除履歴証明書より記入し提出して下さい。複数の病害虫を対象に混合剤（現地混用も含む）を使用した場合、欄の記帳は1箇所です。本田での防除については、収穫前までの期日を厳守すること。	/10a
		温湯消毒の場合は「温湯消毒」とそのまま記帳して、使用月日・使用量欄は斜線を引いてください。			稲こうじ病 (混合剤等含)	月 日	
苗立枯病 (カビ・細菌等)		播種当日にしか使用が認められていない農薬に注意すること（例：ダコレート水和剤・ダコニール1000等）		カムシ類他 (混合剤等含)	月 日	本田散布のイタズラシ・イタズラシ防除剤はこの欄に記入してください。	/10a
		田植日当日より前から使用が認められている商品は使用月日に注意すること（商品によっては、使用適期の幅が広いもあり：床土に混和・緑化期・田植当日まで）			その他	月 日	農薬登録を取得していない商品（100%天然由来でも）、特定農薬（食酢・重曹）以外は「防除目的」で使用しないでください。
病害虫防除 (箱処理剤等)		ペースト肥料に混合する農薬もこの欄に書いてください。（その場合はペースト肥料に混用」と但し書きをしてください）		収穫 出荷方法 (該当する番号を で囲んでください)			
				収穫	1. コンバイン 2. バインダー		
除草剤	初期剤	各商品に記載されている使用時期（移植前日数・移植後日数・収穫前日数、等）を厳守すること。（例：移植後15日までの使用基準の剤移植後20日目に使用した場合 農業取締法違反（使用基準違反）となります）		乾燥調製	1. 自家乾燥調製 2. 自然乾燥		
	一発剤・中期剤	成分別の総使用回数を厳守すること。例：プロモプロドが含まれている除草剤の使用は1回のみ、初期剤（プロモプロド入り）+ 初中期一発剤（プロモプロド入り）= 農業取締法違反		出荷 (乾燥調製)	1. カントリーエレベーター (ライスセンター含む) 2. JA倉庫		
いもち病 (混合剤等含)	後期剤・その他	同じ農薬名でも粒剤・フロアール剤・顆粒水和剤等の剤型によって使用量・使用方法が違う場合が多いので注意すること。		記帳状況の確認 (JA記入欄)			
		共同防除（航空防除・ラジコンヘリ・その他地上防除）の場合は、生産者は農薬名欄の左端に「共」と、わかるように記入し、薬剤名はそれぞれの防除履歴証明書より記入し提出して下さい。複数の病害虫を対象に混合剤（現地混用も含む）を使用した場合、欄の記帳は1箇所です。本田での使用については、収穫前までの期日を厳守すること。		確認月日	確認者氏名 (営農指導担当者)	最終確認印 (JA米地区責任者)	
				第1回	月 日	<p>(確認例)</p> <p>1回目：田植後、 2回目：出穂期前後、 3回目：出荷前、 最低3回はJAの確認を受けてください。</p>	
				第2回	月 日		
				第3回	月 日		
				第4回	月 日		